

 目次

1.  エグゼクティブサマリー
2.  為替市場の動向
3.  日本経済
4.  米国経済
5.  中国経済
6.  その他の地域
7.  来週の注目ポイント
8.  マーケット見通し

 エグゼクティブサマリー

 今週のキーポイント

-  **米国株式市場:** 記録的な強さを示し、S&P 500が3度目の最高値更新
-  **7月4日効果:** 独立記念日を受けて市場は楽観的ムードが継続
-  **トランプ政策:** 「大きく美しい法案」が成立、議会で政治的勝利
-  **雇用統計:** 6月の強力な雇用統計が市場を押し上げ

 主要指標サマリー（株式インデックス）

指数	終値	変動幅	変動率
Dow Jones	44,828.53	+344.11	+0.77%
S&P 500	6,279.35	+51.93	+0.83%
Nasdaq	20,601.10	+207.97	+1.02%
Russell 2000	2,249.04	+22.66	+1.02%
日経平均	39,810.88	+24.98	+0.06%

 為替市場の動向

 主要通貨ペア

通貨ペア	レート	変動率	トレンド
USD/JPY	144.44	-0.33%	 円高傾向
EUR/USD	1.1779	+0.15%	 ユーロ強含み
GBP/USD	1.3648	-0.04%	 横ばい

 為替市場ハイライト

ドル円は144円台で推移し、わずかな円高となった。これは米国の独立記念日による取引量減少と、日本の堅調な経済指標を反映したものである。ユーロドルは1.17台後半で推移し、欧州の経済データが市場予想を上回ったことが支援材料となった。

JP 日本経済

 主要指標

- 日経平均株価: 39,810.88 (+0.06%)
- ドル円: 144.44円 (-0.33%)
- 長期金利: 1.430% (-0.010)

 日本市場ハイライト

日経平均株価は小幅上昇で週を終えた。円相場の安定と海外投資家の買い戻しが相場を支えた。政府のラピダス支援策として「黄金株」保有が検討されており、半導体産業の国家戦略的重要性が改めて注目されている。

また、マイナンバーカードの2025年問題が議論の中心となっており、カード本体の10年期限と電子証明書の5年期限が重なることから、行政手続きへの影響が懸念されている。

US 米国経済

 主要指標

- S&P 500: 6,279.35 (+0.83%)
- Dow Jones: 44,828.53 (+0.77%)
- Nasdaq: 20,601.10 (+1.02%)
- VIX指数: 17.48 (+6.72%)

 米国市場ハイライト

米国株式市場は7月4日の独立記念日を受けて祝日ムードの中、記録的な上昇を見せた。特に注目すべきは以下の点である：

 政治・政策面

- トランプ大統領の「大きく美しい法案」が下院を通過し、政治的勝利を収めた
- イーロン・マスク氏が法案への批判を表明し、共和党内での意見対立が表面化
- 7月9日の関税導入期限を控え、各国への通知文書に署名

市場動向

- 6月雇用統計の強さが投資家心理を改善
- ガソリン価格が2021年以来の低水準となり、消費者にとって朗報
- AI関連銘柄の好調が続き、技術株全体を押し上げ

CN 中国経済

中国市場動向

中国市場については、米中貿易関係の緊張が継続している。トランプ政権の関税政策により、中国企業は代替市場の開拓を急いでいる。ベトナムとの新たな貿易協定は、中国包囲網の一環として機能している。

また、「ブラインドボックス」業界への規制強化が発表されたが、POP MARTなどの企業への影響は限定的との見方が優勢である。

その他の地域

EU 欧州

市場動向

- DAX: 23,787.45 (-0.61%)
- FTSE 100: 8,822.91 (-0.00%)

欧州市場は米国の関税リスクを懸念して軟調に推移した。ドイツの産業生産データは予想を下回り、経済の先行き不安が高まっている。

GB 英国

労働党政権が発足から1年を迎えるが、予想以上に厳しい政治的な道りを歩んでいる。ロンドンのIPO市場は30年ぶりの低水準となり、金融センターとしての地位に陰りが見える。

CH スイス・その他

スイスフランは安全資産としての需要が高まり、相対的に堅調に推移している。金価格も記録的高値圏を維持しており、地政学的リスクを背景とした資金流入が続いている。

来週の注目ポイント

📅 重要イベントカレンダー

日時	イベント	重要度	影響
7月7日	us OPEC会合	★★★	原油価格
7月7日	us 関税通知期限	★★★	貿易・為替
7月8日	EU ドイツ工業生産	★★	ユーロ
7月8日	GB 住宅価格指数	★★	ポンド
7月9日	🌐 BRICS首脳会議	★★	新興国通貨

💡 注目ポイント

1. **関税期限**: 7月9日の期限を前に、各国の対応と市場反応
2. **OPEC会合**: 原油増産の可能性と価格への影響
3. **企業決算**: Q2決算発表本格化
4. **中央銀行**: 各国の金融政策スタンス

🎯 マーケット見通し

📊 短期見通し（1-2週間）

🟢 ポジティブ要因

- 強い米国経済指標の継続
- AI関連セクターの成長継続
- エネルギー価格の安定

🔴 リスク要因

- 関税導入による貿易摩擦激化
- 地政学的緊張の高まり
- インフレ再燃懸念

📈 中期見通し（1-3ヶ月）

米国株式市場は堅調な経済指標に支えられ、さらなる上昇余地があると考えられる。ただし、関税政策の影響や地政学的リスクには警戒が必要である。

為替市場では、ドル強含みのトレンドが継続する可能性が高い。日本円は日銀の政策変更期待から底堅く推移すると予想される。

⚠️ 主要リスク

1. **貿易戦争**: 米中欧の関税合戦激化

2. **金融政策**: 各国中央銀行の政策転換

3. **地政学**: 中東・東欧情勢の不安定化

投資家へのアドバイス

- **分散投資**: 地域・セクター・資産クラスの分散を徹底
 - **リスク管理**: ボラティリティ上昇に備えた適切なポジションサイジング
 - **情報収集**: 政策変更や地政学的動向の迅速な把握
 - **長期視点**: 短期的な変動に惑わされない投資姿勢の維持
-

ディスクレーマー

本レポートは情報提供を目的としており、投資勧誘や投資アドバイスを目的としたものではありません。本レポートに記載されている情報は2025年7月5日時点のものであり、その正確性、完全性、または適時性を保証するものではありません。

本レポートの内容に基づいて行われる判断や行動、またはそれにより生じる結果について、当社は一切の責任を負いません。投資判断は投資家ご自身の責任において行ってください。過去の投資実績は将来の投資成果を保証するものではなく、投資には常にリスクが伴います。